

(1)										(2)					(3)					(4)				(5)				
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5
0	1	4	2	10	2	5	0	1	13	13	2	0	6	3	6	12	0	1	1	2	0	0	4	0	4	3	5	0

特によく出来ていなかった箇所

- (1) -5 子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。
- (1) -10 自分から訴えてトイレに行くことが出来るようになった子供に対して「おしっこ出ない」と訴えてもトイレに行くように促す。
- (2) -1 集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子供に対して「○○しないなら○○できないからね」と言葉をかける。
- (3) -2 並ぶ時なのに、子どもの自発的行動を待てず、腕をつかんで引っ張る。

振り返り 保育者のコメントを紹介いたします。

(1) 【子供一人ひとりの人格を尊重しないかわり】について

- ・ 子どもが何気なくした行動も見逃さず言葉にして褒めるようにしている。
- ・ ゆとりがないと焦ってしまうので事前準備をしっかり出来るようにしたい。
- ・ 乳児担当という事で言葉で伝えられない子供たちの感情を引き出し、読み取るようにしている。
- ・ 乳児のクラスは保育士の人数も多く、問題点を皆に知らせ、全員で共有できるよう話し合うように努力しています。
- ・ 子どもを否定するような言葉掛けをしない事は当たり前なので、その子に合った言葉掛けをしている。
- ・ 「忙しい」とは言わないが「ちょっと待ってて」は使ってしまう事が多い。用を済ませた後の対応と、その理由を伝えて話す。
- ・ チェック項目NO.10で、強制はしないが、トイレトレーニング中の子どもが多いので、時と場に応じて子どものペースに合わせて保育していこうと改めて感じた。
- ・ チェック項目NO.5で脅迫的な言葉掛けはしないよう日頃より注意し、心掛けていたが、子どもが危険な行動をしていた際、毅然とした態度で対応する事がある。
- ・ なぜダメなのかは、理由をどの子どもにもしっかり説明し、子どもに恐怖心を与えないように努めていきたい。
- ・ 否定的な言葉や強い言い方はしないようにしているが、手が離せなくて話が聞けない時は「ちょっと待ってね」と言い、その後フォローするようにしている。
（相手が話していたり、忙しそうな時に、相手のことを考えずに自分の事を押し付けるようにはなっていない）
- ・ トイレは普段は特に言わないが、外出する際は念のために行っておく、という事は伝えている。
- ・ 一人ひとりを尊重し、関わるよう心掛けていたが、他の対応をしていて子どもの話に耳を傾けられないこともあるので改善していきたい。
- ・ 排泄の失敗時にその場を動けず、その場で対応してしまう事もあるため、配慮できるように気をつけていきたい。
- ・ 園外保育、行事等の際などすぐにトイレに向かえない状況もある為、一斉で行くように伝えた。また、感覚が安定していない場合もこまめに声掛けして促していた。
- ・ 満3歳児クラスの時は、トイレトレーニングの時間もあり、時間を見て、出なくてもトイレへ促していた。子どもの思いを尊重したいと思った。
- ・ 「今は、忙しいから待って！」と言ってしまいう事もあり、すぐ聞いてあげなかったことに反省している。すぐに聞けない時もあとで聞くことはしていた為、聞けるときは聞こうと思う。
- ・ 子どもの作った作品を否定せずに良い所を見つけ、具体的に褒めたり、頑張りを認めてあげたり、トラブルの際には双方の意見を聞き、納得して解決できるよう心掛けている。
失敗して傷ついた気持ちに寄り添い対応していきたいと感じた。また忙しい際に子どもの目を見てしっかりと対応することでより信頼関係を深めていけたらと感じた。
- ・ いけない事を注意している時間が長いと思ったので、子どもに分かりやすく伝わるように簡潔に話す。
- ・ 園生活の中で起きる子ども同士のトラブルや、やりたい事がある時は子どもと向き合い、きちんと意見を聞き、子どもが納得した上で、毎日の園生活が楽しく過ごせるようにしています。
- ・ 保育士が作業などで忙しいと、子どもの意見を受け入れられなかったり、後回しになってしまう事がある為子どもが話しかけてきた時には手をとめ子どもに向き合っていきたいと思います。
- ・ 発達障害のお子さんに関わる中、同じことを向き合う場合、健常児と少し違ったアプローチをする事があるがその際、常に適切であるかを問いながら進めて行くことが大切だと思った。
- ・ 一人の子と会話をしている時、話しかけてきた時は「今、○○ちゃんと話しているから待っていてね」と伝えている。待たせてしまう子供の気持ちに寄り添えるようにしたい。
- ・ 子どもの年齢や成長過程にもよるが、子どもの思う事（意見）や考えを尊重し、出来るだけ対峙した子どもと同じ目線に立って接する事を心がけている。
- ・ 友達に痛い思いをさせてしまったら、自分がされて嫌なことなど、どうしてダメなのか伝えるようにしている。話したら切り替えて遊びに誘う。
- ・ 排泄の失敗についてはどうしても失敗した場所や状況によっては、その場で対応となってしまうこともあるが、声かけ等で自尊心を傷付けないように心がけたい。
- ・ 配膳方法については低年齢のクラスではどうしてもプレート⇒スプーン⇒デザート順になってしまうが、「食べたい」と意思表示されたらあげるようにしている。
- ・ トイレの促し方は、その場で「出ない」と言っても、その後にも漏らしてしまう子に関しては、失敗して自尊心が傷ついてしまう事を防ぐ為にも連れて行くようにしている。

(2) 【物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけについて】について

- ・ 子どもが自ら「やりたい」と思えるような言葉を心掛けていた。

- ・ 園が怖い場所にならないよう、安心して遊べる場所だと思えるように信頼関係を築けるように努めています。
- ・ イヤイヤ期でもある為、気分次第で感情が激しい子ども達も多いが、たくさん言葉掛け等をし、寄り添って気持ちを受け止めるようにしています。
- ・ 場面は違うが昼食前、なかなか部屋に入らない子に対して「○○ちゃんの給食食べちゃおう」的な事は言ってしまうている。
- ・ 自分では良いと思っている言葉掛けなど間違っていないか毎日反省する。強要していないが類語を使っていないか再確認していきたい。
- ・ 低年齢児ほどスムーズに集団生活を子ども自身で行う事が難しいのは当たり前なので、少しずつ周囲の行動に気付き、楽しく行えるような援助に努めている。
- ・ 「○○したら○○しようね」と言うようにしているが、「～でなくなっちゃうよ」と言ってしまう事はあった。なるべくやらないか聞いた上で、対応できるようにしたい。
- ・ 怒鳴ったり、鬼などで脅すことはないが、「○○しなさい」は使ってしまう事があるので、使い方には気をつけたい。
- ・ 子どもたちなりの表現の仕方や自由に発言・意見を言えるような環境づくりを心掛けている。
- ・ 子どもたち自身が物事を考え、自発的に行動する力を育むことができるように声掛けを工夫していきたい。
- ・ 否定的だったり、強い伝え方はせず、次の意欲につながるよう伝える。
- ・ 強要・脅迫をしないように子どもたちへ伝えるために自分自身のボキャブラリーを増やしたいと思う。
- ・ 今後も子ども達が伸び伸びと安心して過ごせるような言葉掛けができるようにしたいと思う。
- ・ 年少組の際、お部屋に戻る事を嫌がる子に「おやつ、食べちゃおっかな～」などと声掛けしてしまっていた。今後声掛けをよく考えて行きたい。
- ・ 「○○できないと○○できないよ」というマイナスの言葉よりも「○○ができるかも。できたらカッコいい」とプラスの言葉掛けをして子ども達のやる気を高められるように心掛けている。
- ・ 毎日の中で、子どもが怯えてしまうような、また否定してしまうような言葉は使わず、子どもが「先生～」と頼って慕ってくれる園生活を送っています。
- ・ 一斉活動やお昼寝など、すぐに行動できない子どもに対して言葉で強要してしまった事があるので、子どもが納得して、自分から行動できるような言葉掛けをしていきたいです。
- ・ 集団生活を意識しすぎて強要してないか常に考えて保育している。
- ・ 子どもとの関わりの中で、注意したり、叱らなければならない場面に直面した場合、ただ「ダメ！」「いけない」と否定的に言うのではなく、なぜ「いけない」のか子供の成長過程に合わせながら説明するようにしている。
- ・ 子どもに動作を促す時、他児の動きについてこれず、遅くなってしまった際などの言葉掛けに、急がせたいあまりに他児との比較を入れた言葉掛けをしてしまいそうになるので子どもによっては委縮したり哀しい気持ちになってしまう事を考慮し、気をつけていきたい。
- ・ クリスマスや節分の時期に「○○しないとサンタさん、来ないよ」「鬼さんが来るかもよ」と言う言葉掛けをしてしまう時もあったので、子ども達が自分で考え、行動が出来るような言葉掛けを心がけていきたい。
- ・ とっさな判断をしなければならぬ時、冷静に声を掛けられるよう心掛けたい。「○○だと○○できないよ」に対しては、物を持って、遊具に登っていたりする子に持っている危険なものは、登れないよと声を掛けたことがある。

(3) 【罰を与える・乱暴なかかわり】について

- ・ 子どもたちが委縮してしまいそうな言葉掛けはせず、今後につながる言葉や説明をして伝えるようにしている。
- ・ 罰を与えていないが、短くいけない事を知らせ、その後は抱きしめている。
- ・ 低年齢児には一人ひとりペースも違うので、集団生活の中で、子どもが思うように行動してくれず焦ってしまう場面もあるが保育の引き出しを広げられるよう努力したり、一緒に働く保育者たちと協力し、今後はこれまで以上に注意に関わってきたい。
- ・ 子どもに手をあげたり、罰を与える事はないが、一列に並ぶ時に急いでいる時などは少し手を引いてしまうはある。声掛けで伝えられるようにしたい。
- ・トラブルが生じた際には、まず子どもたちの話を聞き、気持ちを受け止めている。
- ・ 子どもたちとの沢山のコミュニケーション（抱っこ、手をつなぐ）をさらにとりながら、子どもが安心して保育者やお友達と関われるように援助していきたい。
- ・ 強く行っていないが、緊急時は「こちだよ」と服を軽く掴み、知らせる事はある。子どももいい気持ちではない為、急いでいる時でも安全に声掛けが大切と思う。
- ・ 出来ない事があっても罰や乱暴に関わらず、言葉で目を見て伝えるように心がけている。
- ・ 並ぶ場所が分からない時や違う所に並んでいた時に腕を持ってしまうことがあったので言葉掛けで子ども自身が動けるようにしたいと思う。
- ・ 子どもが悪い事（お友達への噛みつき、叩くなどの行為）をしてしまった際には子どもが理解しやすい言葉で「いけない事」を伝えていきたいと思う。
- ・ 手や体を叩くなどはせず、ためな事はなぜだめなのかを理解できるよう目をよく見て話すようにしている。（簡潔に）
- ・ 子どもの人数チェックの際、頭を触り数えていた。ですが、痛いと感じる子もいると知り、反省することができた。今後は気をつけたい。
- ・ 並ぶ時にずれてほしい時などに「横にずれてね！」と声掛けはするが、ずれていない子の腕を引っ張る事があり、今後気をつけていきたい。
- ・ ホールに移動する際やお散歩に行く際などは移動の際になかなか並ばず遊んでいる子に「行こう」と手を引いてる事がある。その子一人ひとりが納得して次の行動に移れるような丁寧な言葉掛けや対応をして自発的に動けるように促したい。
- ・ 罰を与えるというのは絶対にせず、何がいけないのか、次はどうすれば良いか、一緒に考えるようにしている。
- ・ 罰を与える事は、ただ子どもが怯えるだけなので絶対にしません。子どもが毎日、楽しく安心して過ごしている環境にあると思います。
- ・ 子どもの人数をチェックする時に、つい頭をポンと軽く叩いて数えたり、危険がある時は咄嗟に腕をつかんでしまうので、人数チェックの時は頭でなく、手をあげる、ハイタッチなど他の方法で対応していきたいと思います。
- ・ 人数を数える時には見落とさないよう、つい子ども達の頭に触れてカウントしてしまうが、子ども達から見て大きな保育者から触られると叩かれたと感じる事もあるという事を常に意識していきたい。

- ・ 叩いたり、みんなの前で叱る事はしない。叱る時は声のトーンを調節し、本人のプライドを考慮する。
- ・ 子ども同士のトラブルで相手に危害を与えそうな時、もしくは与えてしまった時など、引き離す際、急を要するあまり乱暴な関わりをしてしまう事があるので気をつけたい。子どもが嫌な思いをしていないか心理的に傷つく事がないような指導をしていきたい。子どもに「完璧」を求めないことも大切だと思っている。
- ・ 手を引くなど脱臼しないように気をつけている。
- ・ 今後も子どもに寄り添い、子ども達が落ち着くまで抱きしめ気持ちを受け止め、落ち着いてから、「なぜいけないのか」「どうしたらいいか」を考えるように促す。また、言葉で説明できない時は代弁し、具体的にわかりやすい言葉がけを心がける。
- ・ お友だち同士のトラブルで叩いたり、引っ張る、噛むなど怪我をさせてしまうような行動をしてしまった際には、落ち着いて目をよく見て対応し、伝えるように心掛けている。
- ・ 上記と同じような事が続いて起きた時などに、少し怖い顔をしてみたり、。声のトーンを変えてみたりしているが、その子に合った対応を出来るようにしていきたい。
- ・ 集団行動の輪から外れ、どこかに走って行ってしまふ子がいた際に手をつなぐつもりが抵抗され、腕を掴んで引っ張ってしまう事が何度あった為、今後は行わないようにする。

(4) 【一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかわり】について

- ・ 様々な環境の子どもたちがいます。子どもが寂しい思いをさせないように配慮しています。
- ・ 定期的に身上書を読み返して、家庭環境の把握をしている。
- ・ 子ども一人ひとり育つ環境が異なる事は当然の事なので、自分自身の価値観だけで関わらないように注意している。
- ・ 今後も、子ども一人ひとりの家庭環境に配慮しつつ、子ども間で、子どもたち自身の価値観で友だちのことを非難したりすることがないよう、日々の保育の中で繰り返し多様性を理解し、尊重し合えるような関わりができるような配慮をしていきたい。
- ・ 一人ひとりの家庭環境を把握し、保護者の方の悩みなどの耳を傾けながら尊重し合えるような関係を築いていきたい。
- ・ 子ども達の家庭環境についてあまり深入りをせずに子ども達が家でのことを話してきた時には一緒に楽しく話そうにしている。
- ・ 朝の質問の時間に子ども達が何をしたかを全員に聞いてしまう時があるので避けたいと思う。
- ・ 様々な家庭があるので保護者への対応は、その家庭に合わせ慎重に行っているため、保護者の方も、毎日安心して子どもを預けられると思います。
- ・ 子どもが忘れ物をしてしまった時に「ママが忘れた！」と言う子がいるが、それに同調してあげながらも、おうちの事や、お仕事を頑張っている事を伝えたりしている。
- ・ お迎えの遅い子や、長く幼稚園にいる子ども、不安を口にする子、表情や言動に出ている子に対しては気持ちを受け止め、沢山スキンシップを取り、安心してもらえるよう接するよう心掛けている。
- ・ 全員の小さな変化などに少しでも早く気付いてあげられるように努めたい。

(5) 【差別的なかわり】について

- ・ グループ分けしやすい点から男の子・女の子と分けてしまう。
- ・ 色を選ぶ際などには選択肢を多めにするようにしている。
- ・ いつも同じ子ばかりに関わるのではなく、順番の時など必ず全員に言葉掛けをするようにしている。
- ・ 子ども達の成長等に合わせて、できない子には寄り添い、言葉掛けや環境づくりを考えて行きたい。
- ・ 多様性の時代なので男のんだから・・・的な発言には気をつけようと思います。
- ・ 減らしても食べ終わらない事が多いが、減らしたことで完食し、喜ぶ姿が見られる。本人もとても嬉しそうである。
- ・ 自分から「減らしてほしい」「食べられない」と伝える事も大切なことだと思う。
- ・ 否定的にあまり使わないが、「男の子だから強いね」などで使う事はあった。
- ・ 食事については極端に量を減らすことはないが、子ども達の食べられる量を把握して調節したりしている。
- ・ 遊びの際に特定の子ども達にかたよってしまう事もあるので、全体的に差別のない関わりが出来るようにしていきたい。
- ・ 午睡の際にはできるだけ全員と関われるよう工夫していたが、不安定になってしまう子もいたため、決まった子に接する事が多かった。今後は全員と関われるようにしたい。
- ・ 朝、お部屋に登園した子に必ず笑顔で顔を見て挨拶するように心がけて関わっている。
- ・ 乱暴な言葉を使う子（男女とも）には、相手がどんな気持ちになるか、言われてうれしいかなど気持ちを考えられるような声掛けをしている。
- ・ 挨拶は基本的な事なので、毎日誰に対しても平等にしています。また、子どもを傷つけるような言葉は日常生活ではほとんど使っていないと思います。
- ・ 一人ひとりに目を向け、目立つ子供ばかりに注意がいかないよう気をつける。
- ・ 保育士の先入観で「この子はこんな子」と決めつけてしまう事がないように、一方向からでなくいろんな角度から子どもの良い所を見つけてあげたいと思う。些細な気づきも現場の保育者との間で情報共有ができるようにしていきたいと願う。どの子にも積極的に関わりたい、個性を知っていく中でありのままを受け入れたうえで寄り添った保育を目指していきたい。
- ・ どうしても手のかかる子に支援が偏りがちだと思う時があるが、全体に目を向けどの子にも大切に関わっていきたい。
- ・ 乱暴な言葉遣いについては男女関係なく良くない事だと思うので「そういう時は○○と言った方がいいよ」などと声掛けをしているが、特に女の子に関しては「プリンセスはこうするんだよ」などと喜びそうな言葉掛けをしていたので、ジェンダーレスな時代だと置いて対応していきたいと思う。